ISSN 1880-182X

仏教音楽

本願寺仏教音楽・儀礼研究所 ニュースレター

特集：宗祖讃仰作法　ご制定

研究所通信 —— 主催事業報告／刊行物紹介ほか

交流のひろば —— 東京教区

『宗祖讃仰作法』と『宗祖讃仰作法（音楽法要）』の経本並びに参考音源

2009.3 第7・8合併号

特集

宗祖讃仰作法 ご制定

親鸞聖人750回大遠忌法要にて御本山で依用される『宗祖讃仰作法　第1種・第2種・第3種』が、ご制定となりました。それに伴い、直属寺院・一般寺院では、第2種と第3種に準じた『宗祖讃仰作法』および『宗祖讃仰作法（音楽法要）』を依用いただくことになりました。

本山での音楽法要（宗祖降誕会）

この『宗祖讃仰作法』および『宗祖讃仰作法（音楽法要）』は、それぞれ第2種・第3種に準じており、前者が和讃を中心とした伝統的な様式による作法、後者が西洋音楽を採り入れた作法となっています。どちらも現代に即した法要としてご制定となったもので、ともに伝統を継承しつつも、創意工夫に満ちた作法となっています。ここでは、本ニューズレターの性格に即し、『宗祖讃仰作法（音楽法要）』についてご紹介しましょう（『宗祖讃仰作法』については、『宗報』2009年1月号2-3ページの「『宗祖讃仰作法』ご制定にあたって」を参照）。

音楽法要として、第3種を基に制定された『宗祖讃仰作法（音楽法要）』は、宗祖の御消息にはじまり、頂礼文、表白、正信念佛偈、和讃・念佛、回向文、そして最後に再び宗祖の御消息を拝読する構成となっています。

特徴としては、まず登礼盤の前と最後の降礼盤の後に行う、御消息の拝読があげられます。これは、親鸞聖人のお言葉（いずれも宗祖御消息第26通の抜粋）を住職が拝読し、出勤者・参拝者が一同に、そのお心をいただくことにあります。

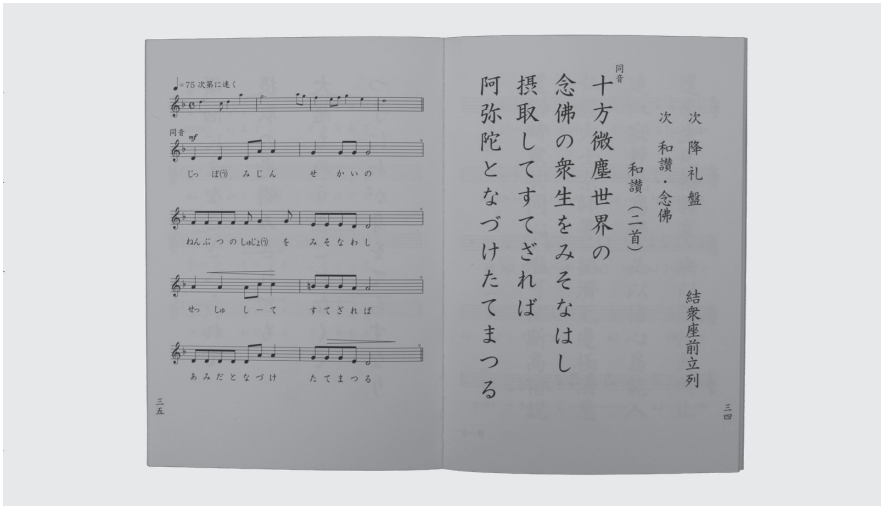
頂礼文は、『報恩講私記』（覚如上人）の5種の頂礼文から佛名の1句を御文とし、新たに作譜したものとなります（詳細は、右ページ参照）。

正信念佛偈は、『正信念佛偈作法』の譜（いわゆる「十二礼の節」）によります。ただし、全体に附楽として、西洋音楽的な和声を伴った器楽が添えられています。

和讃・念佛も、頂礼文と同様に、新たな譜となっています（詳細は、右ページ参照）。

回向文は、恩徳讃として知られる和讃を御文に、仏教讃歌《恩徳讃》（澤康雄作曲）の譜で唱えます。

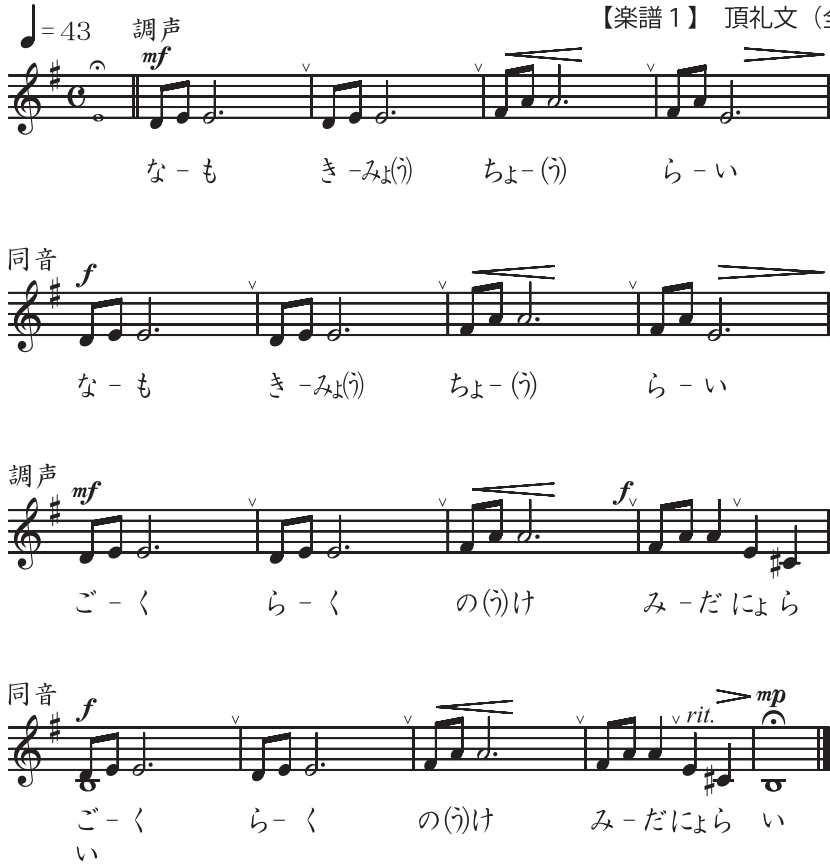
その他、入退堂および登礼盤、降礼盤に際しては、音楽法要として、適宜伴奏を付すことになっています（2009年5月発売予定の讃歌衆用楽譜には、登礼盤および降礼盤用の参考楽曲の楽譜を収録の予定）。



『宗祖讃仰作法（音楽法要）』の経本（左に楽譜、右に御文）

頂礼文について

【楽譜１】 頂礼文（全）



■御文出典

『報恩講私記』の５種頂礼文中より佛名の１句を選出。

南無帰命頂礼
極楽能化　弥陀如来

■音楽的構成

調声に続き同音が繰返す形式。

■唱え方のポイント

１．「帰命」等の「(う)」（楽譜１参照）は、「う」と発音せず、直前の母音をのばして唱えましょう。

２．冒頭の調声部分は、導入音ミを聴いて、歌い出しの音レを正しく取りましょう。

３．「頂礼」の部分（調声・同音とも）は、ファからラへ３度上がります。ラの音程が下がりやすいので注意が必要です。

４．同じく「頂礼」の部分は、小節間にブレス（息継ぎ）記号がありますが、「頂礼」で一語になるので、息を吸うことで音楽が途切れないよう、気を配りましょう。

５．「極楽」の語も「頂礼」の部分同様、小節間のブレスの仕方に注意が必要です。

６．「弥陀如来」の部分は、それまでの部分と異なるリズムとなっています。また、「弥陀如来」も一語なので、ブレス時に音楽が切れないように、気をつけましょう。

７．同音の「極楽」の「ご」は、調声の「如来」の「い」と重なります。音が異なるので、後から唱える同音は、調声の音につられないように、注意しましょう。

和讃・念佛について

■御文出典

和讃第１首
浄土和讃「弥陀経讃」82
十方微塵世界の
念佛の衆生をみそなはし
摂取してすてざれば
阿弥陀となづけたてまつる
（小本和讃 72 丁右）

和讃第２首
高僧和讃「源信讃」95
煩悩にまなこさへられて
摂取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つ子にわが身をてらすなり
（小本和讃 142 丁左）

和讃第３首
高僧和讃「善導讃」76
五濁悪世のわれらこそ
金剛の信心ばかりにて
ながく生死をすてはてゝ
自然の浄土にいたるなれ
（小本和讃 132 丁左）

和讃第４首
正像末和讃「夢告讃」1
弥陀の本願信ずべし
本願信ずるひとはみな
摂取不捨の利益にて
無上覚をばさとるなり
（小本和讃 158 丁右）

和讃第５首

高僧和讃「曇鸞讃」34

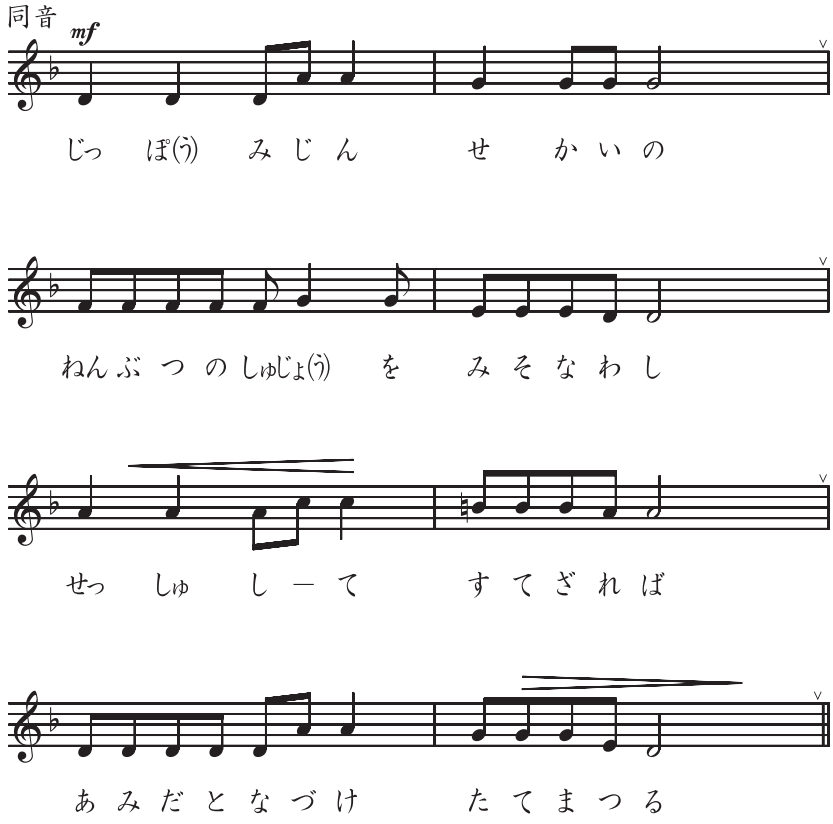
弥陀の回向成就して
往相還相ふたつなり
これらの廻向によりてこそ
心行ともにえしむなれ
（小本和讃 110 丁左）

和讃第６首

正像末和讃「三時讃」54

弥陀大悲の誓願を
ふかく信ぜんひとはみな
子てもさめてもへだてなく
南无阿弥陀佛をとなふべし
（小本和讃 185 丁右）

【楽譜２】 和讃第１首



■音楽的構成

１．和讃と念佛を交互に続けて唱える（和讃２首＋念佛４句＋和讃２首＋念佛４句＋和讃２首＋念佛 12 句）。

２．和讃は、すべて同じ譜による（楽譜２参照）。ただし、５首目より１音高く転調。

３．念佛は、４句（２句＋２句）で一つの節を成す（楽譜３参照）。念佛も和讃５首目の転調に伴い、最後の 12 句は、転調する。

■唱え方のポイント

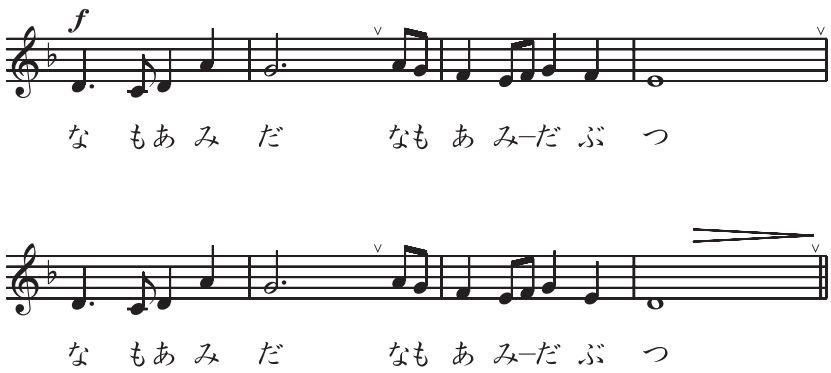
１．和讃は、８分音符が基本リズムとなっていますが、２拍単位のまとまりを感じながら、唱えましょう。

２．音が跳躍するところ（和讃第１～４首の各１句目レ→ラ、３句目ラ→ド、４句目レ→ラ、和讃第５、６首の同部分）は、後ろの音が低くならないよう、気を配りましょう。

３．念佛についても、各念佛４句のうち第１、３句のレ→ラ（転調後はミ→シ）の後ろの音が低くならないよう、気をつけましょう。

４．和讃第５首からの転調に際しては、直前の念佛の最終小節の３拍目から、転調の準備の和音が響きます。僅かな時間ですが、ハーモニーを感じ取って、唱える音の準備をしましょう。

【楽譜３】 念佛（和讃第２首後）



研究所通信

主催行事報告

秋の法要

御堂演奏会 2008

合唱活動を行う門信徒を対象とした標記演奏会を下記の通り開催。今回は 20 年目となる節目にあたり、「おつとめの導入」や「御本尊と対峙する形式」での歌唱など、儀礼面での試みを行った。

〔プログラム〕
- 第 1 部 おつとめ
- 第 2 部 仏教讃歌演奏
  - 《流れゆく雲に》
  - 《光のなかに》
  - 《みほとけは》
  - 《ひかりあふれて》
  - 《ゆるされし》
  - 《念仏》
- 第 3 部 《恩徳讃》 斉唱

〔第 1 日〕
日時：11 月 22 日（土）
14：00 ～ 15：00
会場：本願寺総御堂
出演
- 讃歌衆－全国から参加の 650 名
- 指　揮－鈴木捺香子（客員研究員）
- ピアノ－石川紀久子（委託研究員）
- オルガン－久保田清二（相愛大学名誉教授）
- 司　会－鹿多証道（委託研究員）

〔第 2 日〕
日時：11 月 23 日（日）
14：00 ～ 15：00
会場：本願寺総御堂
出演
- 讃歌衆－全国から参加の 550 名
- 指　揮－大分哲照（元指導員）
- ピアノ－藤林由里（委託研究員）
- オルガン－久保田清二
- 司　会－鹿多証道

2008 年秋の法要 御堂演奏会での合唱風景

御正忌報恩講

奉讃演奏会 2009

日時：1 月 15 日（木）
15：30 開場　16：00 開演
会場：聞法会館　多目的ホール

御正忌報恩講期間中、仏教讃歌普及の一環として開催。今回は、ゲストとして、相愛大学（宗門関係学校）の教員による声楽アンサンブルを招いた。

〔プログラム〕
- オープニング 《ふれあるき》
- 挨拶（橘正信総務）
- 第 1 部 本願寺合唱団
  - 《人の世の》
  - 《光のなかに》
  - 《芬陀利華》
  - 《聖夜》
- 第 2 部 声楽アンサンブル
  - 《みめぐみの》
  - 《私の中に》
  - 《たぐいなき》
  - 《弥陀大悲の誓願を》
  - 《本願力にあひぬれば》
  - 《散華》
  - 《み仏のほほえみに》
- 第 3 部 本願寺合唱団
  - 《咲き匂う》
  - 《みほとけは》
  - 《しんらんさま》
  - 《ひかりあふれて》
  - 《念仏 ― 御正忌報恩講編》

本願寺合唱団
指揮・鈴木捺香子　ピアノ・丸山千晶

第 2 部　声楽アンサンブル
左から順に髙橋侑子（ソプラノ）大林敦子（アルト）
馬場清孝（テノール）片桐直樹（バス）

本願寺文化シンポジウム

節談が伝える御法義

日時：7月8日（火）
13：00 ～ 17：00
会場：聞法会館　多目的ホール
〔プログラム〕
第1部 基調講演
関山和夫（佛教大学名誉教授・京都西山短期大学学長）
第2部 節談実演
講題「弥陀のよび声」
塚本慈顕（本願寺派布教使）
講題「立撮即行」
廣陵兼純（真宗大谷派満覚寺住職）
第3部 パネル・ディスカッション
パネリスト
浅井成海（教学伝道研究センター副所長・節談研究会会長）
山下義円（本願寺派布教使）
藤田隆則（委託研究員・京都市立芸術大学准教授）
司会・直林不退（委託研究員・龍谷大学他講師）

仏教関連の音声文化を対象としたシンポジウムの第一弾。対象は近年宗門内で注目を集め、復興の兆しを見せつつある「節談」。単に、音声面からの評価のみならず、衰退した歴史的経緯にも焦点を当て、その歴史的再評価と可能性を問うシンポジウムとして開催。

左から関山師、パネル・ディスカッション、塚本師、廣陵師

現代儀礼論研究会

前年度に続き、実践的儀礼論へのアプローチを目的とした研究会として開催。

〔第1回〕
日時：6月10日（火）
14：00 ～ 17：00
会場：本願寺第三庁舎
テーマ：「真宗の儀式論の前提」
発表者：竹橋太（真宗大谷派教学研究所所員・儀式指導研究所研究員）
内容
2006年に大谷派で行われた中央同朋会議「真宗の仏事の回復」の開催経緯を中心に、真宗大谷派の儀式観について言及。現在、真宗大谷派で深刻な問題として挙げられている「儀式・声明を専門とする僧侶の人材不足」を題材とし、教学と儀式のアンバランスについて述べると同時に、儀式論全般に蔓延する形式主義的理解の払拭を試みる内容。

〔第2回〕
日時：9月2日（火）
14：00 ～ 17：00
会場：本願寺第三庁舎
テーマ：「布教・伝道と儀礼・荘厳」
発表者：山田雅教（本願寺史料研究所客員研究員）
内容
一般人の持つ僧侶イメージを題材に、真宗僧侶論について言及。真宗僧侶を表象する「非僧非俗」と「半僧半俗」の違いを明瞭化し、「かたち」だけ僧侶、「かたち」だけ俗人という世界観からの脱却こそ、本来の「非僧非俗」であるとした。また「かたち」として表象されたものの本質に意識を向けることこそ、否定的な意味合いで使用される「儀礼」を超えるものであると指摘。

第3回発表者
弓山達也氏

〔第3回〕
日時：2月17日（火）
14：30 ～ 17：30
会場：本願寺第三庁舎
テーマ：「励ましのコミュニティかスピリチュアル危機か」
発表者：弓山達也（大正大学教授）
内容
スピリチュアリティの実態を調査すべく、弓山氏は自ら「スピリチュアルナビゲーター」というポータルサイトを運営し、スピリチュアリティに関心を持つ人々の指向性について分析、報告を行った。また同時に、宗教界におけるインターネット利用の可能性と限界、今後の可能性について言及。宗教界と信仰者層、関心者層との結びつき（協働）の重要性と方向性を示唆。

2009年度は、これら研究会の集大成として、現代儀礼に関するシンポジウムを開催の予定。
（日時等未定）

刊行物紹介

『讃歌集 二部合唱版』1～6

要望の多い二部合唱用の讃歌の楽譜集（第１～６巻）を編纂。これまでに御堂演奏会で取り上げられた作品を中心に収録（ピアノ伴奏版）。曲目は以下の通り（本願寺出版社より近日発刊・価格未定）。

【第１巻】
Namo Amida Butsu
ごおんうれしや
どこにもひかりが
なだめ
やさしさにであったら
心のひと
いのち

【第２巻】
聖夜
成道の歌
光のなかに
みほとけのほほえみに
求道の歌
私の中に
念仏

【第３巻】
衆会
芬陀利華
生きる
青草は
いつか私は
ほほえみとともに

【第４巻】
のんのさま
咲き匂う
山科の路
花のこころ
そんなときわたしはくちずさむ
小さな灯
いのちかがやいて

【第５巻】
みめぐみの
太陽からの手紙
名もない今日を
あの空見れば
ありがとう
みほとけは
弥陀大悲の誓願を

【第６巻】
いのちまいにちあたらしい
しんらんさま
千万の／み光りの
コスモスの花
憶念
ひかりあふれて

大正琴用楽譜第３期分

仏教讃歌の普及のため、大正琴用の楽譜（第３期分５曲）を編纂（近日発刊）。曲目は以下の通り。

四弘誓願
衆会
聖夜
のんのさま
Namo Amida Butsu

希望者は、研究所まで（無料）。
※既刊分についても受け付けています。

第１期分（５曲）
真宗宗歌／敬礼文／三帰依／念仏／恩徳讃（旧譜）

第２期分（５曲）
みほとけにいだかれて／宗祖降誕会／報恩講の歌／光のなかに／恩徳讃（新譜）

2008年度スタッフ

所長　小野　功龍（雅楽）

主任　佐々木正典（真宗学）

常任研究員
　轡田　智文（勤式）
　福本　康之（芸術学）
　前田　正樹（ｱｰﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）

研究員
　今小路聡子（声楽）
　多村　至恩（社会学）
　波々伯部宏彦（音楽教育）
　山口　篤子（芸術学）

研究助手
　戸田　直夫（音楽学）

客員研究員
　尾家　京子（音楽学）
　鈴木捺香子（合唱音楽）

委託研究員
　青木　義恭（声明）
　荒川　恵子（音楽学）
　石川紀久子（音楽学）
　小野　　真（勤式）
　鹿多　証道（音楽教育）
　寺内　直子（芸術学）
　杜多　隆信（勤式）
　直林　不退（仏教史学）
　藤田　隆則（芸術学）
　藤林　由里（作曲）
　丸山　千晶（ピアノ）

研究生
　棘　麻衣子（雅楽）
　鈴鹿　啓子（ピアノ）
　玉城　　葵（ピアノ）

交流のひろば

東京教区から

東京教区第 26 回成道会布教大会

コーラスのつどい

日時：12 月 8 日（月）
12：50 ～ 13：20
会場：本願寺築地別院本堂
主催：東京教区基幹運動推進委員会
東京教区教務所

近年、教区単位での仏教讃歌関連行事が盛んです。そうした時流のなか、宗祖降誕会をはじめ、さまざまな機会に音楽法要が勤まるなど、仏教音楽に熱心な教区の一つとして知られている東京教区において、昨冬、同教区初の試みとして、「コーラスのつどい」が開催されました。

お話される南荘さん（指揮者）

練習風景（左）と本番の模様（右）

12 時 50 分からの本番に先立ち、参加者の皆さんは、午前中から、築地別院内の蓮華殿にて最後の仕上げ練習。指揮者の南荘宏さん（東京教区静岡西組教覚寺住職）を中心に、約 300 人の大合唱で、既に練習会場は、熱気に満ちていました。

「コーラスのつどい」で演奏された曲目は、以下の通り。

いのちまいにちあたらしい
（詞・喜多内十三造　曲・林秀茂）
のんのさま（詞・東村美穂　曲・中村八大）
ふるさと（詞・高野辰之　曲・岡野貞一）
念仏（詞・山本有希子　曲・森琢磨）

曲の間には、指揮者によるお話や、参加者と参拝者全員による合唱もあり、僅か 30 分という時間ではありましたが、とても充実した内容となっていました。

伴奏者として参加された藤田よしのさん（電子ピアノ・千葉組浄土寺坊守）や竹内恵理さん（シンセサイザー・千葉組天真寺門徒）も、初めての試みながら、成功のうちに終わったことを喜んでおられました。

訂正とお詫び

第 6 号裏表紙写真キャプションに誤りがありました。下記の通り訂正し、お詫び申し上げます。

誤）滋賀教区仏教婦人コーラス“響流”
正）滋賀教区寺族婦人コーラス“響流”

仏教音楽 第7・8合併号

本願寺仏教音楽・儀礼研究所 ニュースレター

発行日：2009（平成 21）年 3 月 31 日
編　集：本願寺仏教音楽・儀礼研究所
発行者：浄土真宗本願寺派　教学伝道研究センター　所長・上山大峻
〒 600-8349　京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92 番地　本願寺第 3 庁舎内
Tel.：075-371-9244　Fax.：075-371-5761
http://www2.hongwanji.or.jp/ongaku/
頒　価：無料